



7月29日、絵本の館の来館者数が60万人を突破しました。この記念すべき60万人目となったのは、埼玉県草加市の朝光元気くん（小学校2年生）で、夏休みを利用して旭川市の親族宅に兄弟3人で遊びに来ており、親族の家族とともに7人で来館しました。

60万人を記念して、佐々木町長から第19～21回けんぶち絵本の里大賞受賞作品と、『こうしがうまれたよ』『ムーニャとほしのたね』の5冊を、また、けんぶち絵本の里を創ろう会から『ムーニャとほしのたね』グッズ等が贈られ、朝光くんは、「60万人のお客さんでうれしい」と元気よく話していました。

この来館者数60万人達成は、平成21年8月に来館者数50万人を突破してから、約3年ぶりの達成となりました。

絵本の館来館者数50万人目のお客様を覚えていませんか？

平成21年8月、別海町の藤井達也くんが記念すべき絵本の館来館者数50万人目のお客様となりました。それから早3年がたち・・・なんと剣淵高校への転勤のため、藤井親子が剣淵町へやってきました！3年前の50万人目達成は、実は運命だったのかもしれないね。

藤井さん親子に剣淵町の印象を聞くと、「別海町は気温が夏でも20度程しか上がらないので、剣淵町は暑い！農村地帯が広がっているので、景色がきれい。」と話していました。

これからも、絵本の館等剣淵町を満喫してください！



8月1日、第22回けんぶち絵本の里大賞・絵本原画展オープニングセレモニーに町長や議長をはじめ、下田孝夫平波大学自治会長、保育所の新見こうだい君、羽田りみちゃん、須賀川西少年バスケットボールスポーツ少年団の下重友里愛主将、絵本作家の池谷陽子さんが出席しテープカットが行われました。

今年は、295点の絵本の応募があり、投票期間は8月1日から9月30日までとなっています。まだ投票を終えていない方は、ぜひ絵本の館へ足を運んでください。



8月5日、桜岡湖で桜岡湖水まつりが行われました。

延べ約2,500人の来場者数があり、たくさんの方が出店やイベント、花火を楽しんでいました。



8月9日、士別地域防犯少年野球大会(小学の部)が平波球場で開催されました。

大会には6チームが参加し、剣淵ボンバーズは士別南野球少年団と対戦し、惜しくも3対5で敗れましたが、観衆の声援を受けながら全員懸命にプレーをしていました。



8月6日、剣淵町保育所で人権擁護委員の中西健一さん、渡辺弘子さん、鴻野瑞節さんによる子どもの人権啓発活動が行われました。

絵本「はじめまして」の読み聞かせを通し、挨拶を通じて相手を思いやる気持ちの大切さを子どもたちに伝えました。



8月18日、町民センター大会議室にて、コミュニケーション講座が行われました。

札幌市 ブラン・ジュテ(会社) 上田菜香さんが講師を務め、第1部「コミュニケーションカUPで快適生活」・第2部「出会いをキャッチするコミュニケーションのコツ」に分け、参加者とその場で出来るゲーム等コミュニケーションの概要を講話されました。



8月23日、農商工業新規就業奨励金支給事業の奨励金交付式が行われました。今回は農業を就業された鈴木勇一朗さん、渡辺要さん、佐々木太志さんに町長から奨励金が交付されました。

鈴木さんは「食料生産に携わりたい、父の手助けをしたいと思い、就農しました。機械導入等で規模拡大し、収量を増やして食料増産に寄与し、健全な経営主になりたい。」と話し、渡辺さんは「大学で学んだ知識を活かし、父と共に農業を営み、親孝行したい。地域の活動にも積極的に参加していきたい。」と話し、佐々木さんは「自衛隊だった頃、食の有難さを知り、親や他の人々の役に立ちたいと思いました。他の農家のみなさんの意見を聞き、新しいことにもチャレンジしたい。」と話していました。